

施策	1201 上水道の整備・管理							
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	有	受益者負担	適正		
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有		
対象	市民							
施策が目指す姿	効率的かつ安定的な水の供給、水道統合事業の推進、既設管路の適切な維持・管理・更新等を図る。							
成果指標	行政区域内普及率 5年間(H25～H29)普及率91.0%(現状値89.4%) 有収率 5年間H25～H29)有収率80.0%(現状値76.1%)							
目 標 達 成 状 況		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度		
	成果指標1 [ % ]	予定	88.50	89.10	89.70	90.30	91.00	
		実績	89.40	90.50	90.50	90.20	90.80	
	成果指標2 [ % ]	予定	77.70	78.30	78.90	79.50	80.00	
		実績	75.90	76.10	75.80	76.46	74.05	
		単位コスト	48,921.53	54,805.15	56,344.13	56,546.85	54,769.20	
	成果指標3 [ ]	予定						
		実績						
		単位コスト						
	成果指標4 [ ]	予定						
		実績						
		単位コスト						
トータルコスト (千円)	予定	4,263,222	3,969,355	4,388,863	4,906,717	4,399,275		
	実績	3,713,144	4,170,672	4,270,885	4,323,572	4,055,659		
内 部 評 価	貢献度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寺尾地区に簡易水道を整備することで行政区域内普及率の底上げを図る。</li> <li>・施設や老朽管の更新事業等において、常に有収率の向上を意識しながら実施した。</li> </ul>						
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普及率は、前年度より0.6ポイント上昇したが、目標には至らなかった。</li> <li>・有収率については、2ポイント以上低下し、目標未達成である。</li> </ul>						
	課題	水道管の老朽化が進行しており、有収率を下げている原因となっている。また、水道施設も同様に老朽化しており、計画的な更新が必要である。						
	取組方針	漏水が多発している管路を優先的に布設替えするよう計画を見直すと共に、漏水調査の範囲を広げて漏水の早期発見に努める。						
外 部 評 価	有収率は、目標値及び当初の数値を下回っているため、コストの削減や安全安心な上水の提供のため、新たな漏水箇所の修繕を行うとともに、将来の地震や災害に備えて計画的、効率的に管路の耐震化を急いでほしい。 また、行政区域内普及率は順調に伸びているが、上水道未整備地区への早期整備を期待する。							
単 位 施 策 達 成 の た め の 事 務 事 業	事業コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度	
	461903	国庫補助金返還金				0	100	
	463201	上水道整備事業費				135,234	100	
	463401	固定資産取得費				5,500	100	
	463501	原水及び浄水施設管理事業費				352,195	100	
	463601	配水及び給水施設管理事業費				322,443	100	
	464103	老朽管更新事業費				162,242	100	
	464304	管路耐震化事業費				103,738	100	
	464401	水道施設耐震化事業費				7,410	100	
	464501	寺尾地区簡易水道事業費				465,723	100	
464601	栃木市水道統合事業費				39,343	100		



## 平成29年度 単位 施策評価表 補表

施策	1201 上水道の整備・管理		
区分	妥当性	妥当	上水道はライフラインとして重要であり、整備・管理を適正に行うことは妥当である。
	コスト削減の余地	有	施設の改修や管路の布設工事において、新しい技術や製品を採用することで耐用年数の延伸とコストの縮減に努める。
	受益者負担	適正	水道事業の運営は受益者からの水道料金により賄っている。
	上位貢献度	有効	基本施策の達成には、安全で良質な水の安定供給は必要であり、上位貢献度は高いといえる。
	類似事業の有無	無	水道事業に類似事業はない。
	成果向上の余地	有	水道ビジョンを策定することで、より効率的で安定した水の供給を目指す。
内部評価 【H29年度分】	貢献度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寺尾地区に簡易水道を整備することで行政区域内普及率の底上げを図る。</li> <li>・施設や老朽管の更新事業等において、常に有収率の向上を意識しながら実施した。</li> </ul>	
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政区域内普及率は、前年度より0.6ポイント上昇したが、目標には至らなかった。</li> <li>・有収率については、2ポイント以上低下し、目標未達成である。</li> </ul>	
	課題	水道管路の老朽化が進行しており、有収率を下げている原因となっている。また、水道施設も同様に老朽化しており、計画的な更新が必要である。	
	取組方針	漏水が多発している管路を優先的に布設替えするよう計画を見直すと共に、漏水調査の範囲を広げて漏水の早期発見に努める。	
内部評価 【前期5年分】	貢献度	南部において浄水場が冠水する被害が発生したが、懸命な復旧作業により、早期に安全で良質な水の供給を再開することができた。指標の評価には直接関与していないが貢献度として評価したい。	
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政区域内普及率は、ほぼ目標を達成できた。</li> <li>・有収率については、年度ごとに上下動があり、目標から大きく下げた状況である。</li> </ul>	
	課題	有収率を下げている原因を究明する必要がある。	
	取組方針	漏水の傾向を分析し、的確な漏水調査の範囲を選定する。浄水、配水過程における不明水を探し出す。	